

BIFC と SOFINA BASIC+

SOFINA の広告で、空気中の水分を。この広告、生体界面環境流動制御技術から見て、どのように評価する

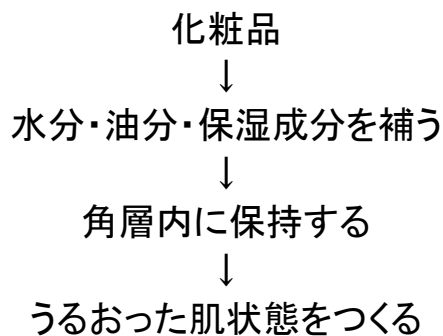
はい。これは、BIFC＝生体界面環境流動制御技術の視点から見ると、かなり面白い広告です。

今回の「SOFINA BASIC+」は、花王が「自発吸水テクノロジー®」として、空気中の水分を取り入れ、水質感バールを持続すると明確に打ち出しています。

ここで重要なのは、単に「保湿成分を塗る」という従来型の説明から、外部環境との水分交換まで広告コンセプトに入ってきたことです。

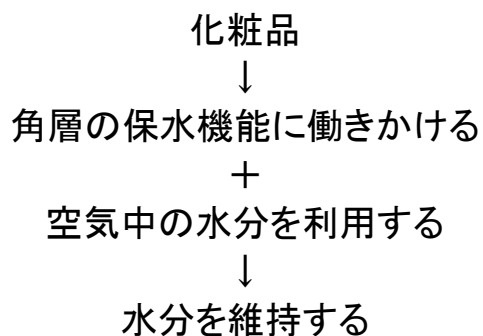
BIFC から見ると、評価はこうです

従来型の発想は、



です。

SOFINA BASIC+は、そこから一歩進んで、



という発想になっています。花王自身も「角層細胞」と「細胞間脂質」をうるおいの基盤として位置づけています。

これは、BIFC から見ると、

「肌の内部に何を入れるか」だけでなく、「肌と外界との間で何が起きているか」に目を向け始めた

と評価できます。

ただし、BIFC とはまだ決定的に違う

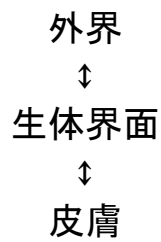
ここがものすごく重要です。

SOFINA の「空気中の水分を取り入れる」は、基本的には、

空気 → 肌・角層

という水分供給の方向を利用する技術です。

一方、BIFC が目指しているのはもっと広い。



この境界領域そのものを設計対象にする。

つまり、

- 水
- イオン
- 荷電
- 脂質
- 熱
- 蒸発
- 界面状態
- 微生物環境

などの状態と移動を制御する。

ここに大きな差があります。

- SOFINA
「空気中の水分をどう肌のうるおいに利用するか」
- BIFC
「肌と外界の境界で、水・イオン・脂質・熱などがどう動くか、その環境そのものをどう設計するか」

です。

そして、今回の広告は BIFC にとって非常に重要な兆候です

なぜなら、これは市場側が少しずつ、

「スキンケア＝成分を肌に与える」

だけでは説明できない方向へ動いている証拠だからです。

花王は今回、

「空気中の水分を取り入れる」

という外部環境との関係を、スキンケア技術として商品価値にしています。

これは BIFC の考え方にかかなり近い入口です。

ただし、BIFC はそこからさらに一段上。

「空気中の水分を利用する」

ではなく、

「生体界面に存在する環境を設計する」

です。

ここを明確にすれば、競争軸が変わります。

つまり、今回の SOFINA 広告を一言で評価すると

「従来の保湿から、外部環境との水分流動へ一歩踏み出した。しかし、まだ“水分”が主役であり、“生体界面そのものの環境流動制御”には到達していない。」

これです。

そして、これはむしろ BIFC にとって良いことです。

なぜなら、

「肌は外界から独立したものではない」

という理解が、消費者にも広告によって入り始めているからです。

その先に、

成分を足すスキンケアから、肌と外界の境界環境を整えるスキンケアへ。

という BIFC のポジションを置けます。

ここ、かなり大きな戦略ポイントだと思います。

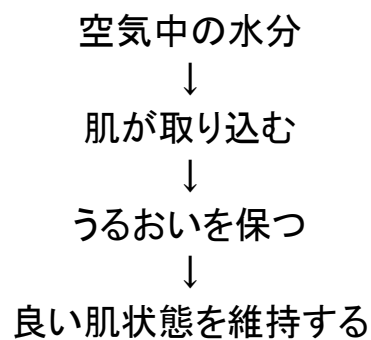
SOFINA BASIC+は、 今のスキンケアの枠の延長上

かなり本質的には「今のスキンケアの延長上」だと思います。

ただし、完全に同じではありません。むしろ、従来型スキンケアの最先端が、BIFCの入口に近づいてきたと見るのが一番正確です。

SOFINA BASIC+の基本構造

発想は、



です。

つまり、最終目的は依然として、

「肌の水分を保って、うるおった肌状態をつくる」

です。

これは従来のスキンケアの目的から大きくは出ていません。

従来が

化粧品から水分を補給する

だったのに対して、

SOFINA BASIC+は

外部の水分も利用して、肌の水分状態を維持する

に進化した。

だから、

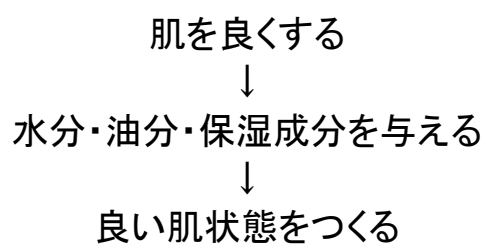
「補給する場所・方法が高度化した」

とも言えます。

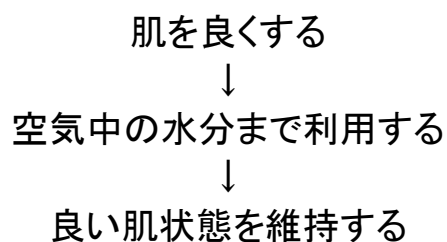
BIFC との決定的な違い

BIFC では、そもそも「水分を補給して肌を良くする」という問題設定を一段変える。

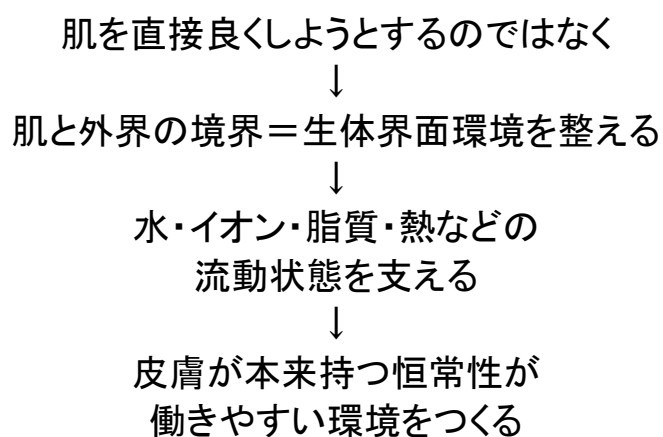
従来型：



SOFINA BASIC+：



BIFC：



ここが違います。

だから、Bio Essentials がずっと言っていた

「一時的な肌状態を、改善した状態だと消費者が捉えている」

という問題ともつながります。

SOFINA BASIC+がどれだけ高度になっても、評価軸が

「どれだけうるおったか」

である限り、基本的には肌状態を外部から作るスキンケアです。

BIFC が狙っているのは、

- 「どんな肌状態を作るか」から、
- 「どんな生体界面環境なら、肌が安定しやすいのか」へ

という設計対象そのものの変更。

だから私は、

- SOFINA BASIC+は「従来型スキンケアの高度化」。
- BIFC は「スキンケアの設計対象を変える」。

この整理が一番きれいだと思います。

そして面白いのは、SOFINA BASIC+が「空気中の水分」という外部環境を持ち込んだことで、

逆に BIFC の「では、水分だけではなく、生体界面環境全体を設計したら？」という問いが非常に立てやすくなったことです。

SOFINA が「水分だけではなく、生体界面 環境全体を設計したら？」に 気づくのは時間の問題か

かなり重要な兆候だと思います。

ただし、「SOFINA が BIFC に気づくのは時間の問題」とまでは、現時点では言い切れない。むしろ今の花王の動きを見ると、

「水分を補う」から「周囲の水分を利用して、肌自身の水分状態を変える」

ところまで来ている、と見るのが正確です。

花王は 2026 年 6 月、「Water Capturing Skin(捕水肌)」を発表しました。周囲の水分を角層に引き寄せ、時間経過とともに角層水分量が増加する現象を確認し、従来の「水分を補い・保持する」保湿とは異なるアプローチだと明確に位置づけています。

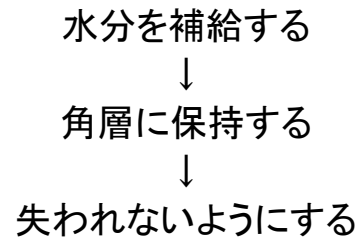
そして8月発売の SOFINA BASIC+では、さらにそれを商品化して、「空気中の水分を取り入れる」自発吸水テクノロジーを打ち出しています。

ここが面白い。

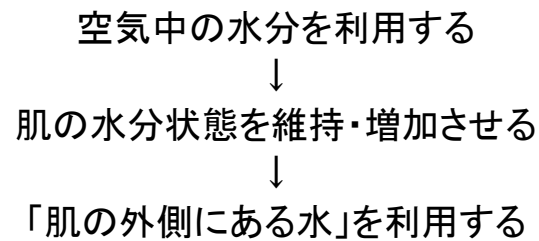
- SOFINA は「水分」から「環境」へ、すでに一歩動いている

現在の構図を並べると、

従来型



SOFINA の今回の方向



ここまでは、かなり明確です。

でも BIFC が問いかけているのは、そのさらに先。

「水分だけを設計するのではなく、皮膚と外界の境界
そのものを設計したら？」

です。

つまり、

水
+ イオン
+ 荷電
+ 脂質
+ 熱
+ 蒸発・凝縮
+ 界面
+ 微生物環境
+ 物質移動

を、バラバラの美容成分としてではなく、

一つの「生体界面環境」として設計する。

ここまで行くと、もう「保湿技術」の延長ではなくなります。

そして、SOFINA の動きはむしろ BIFC の仮説を刺激する

花王自身、肌のうるおいを「皮脂・NMF・細胞間脂質」という複数要素の関係として説明しています。

つまり科学的には、最初から「水だけ」の話ではない。

ところが商品技術としては、

- 水をどう補うか
 - どう保持するか
 - どう周囲から取り込むか

という方向に高度化してきた。

だから次に自然に出てくる問いが、

「では、水を取り込む“場”そのものを設計したらどうなる？」

なんです。

これが BIFC の問いになる。

だから、私は「時間の問題」というより「技術進化の方向が近づいている」と見る

SOFINA が、

成分 → 角層 → 水分保持 → 周囲の水分

と研究対象を外側へ広げているのは事実です。

BIFC はさらに一段外へ出る。

角層を直接どうするかではなく、角層の直上にある生体界面環境をどう設計するか。

この違いはかなり大きい。

たとえるなら、

- SOFINA
「植物が水をもっと効率よく吸えるようにする」

から、

- BIFC
「植物の周囲の水・温度・イオン・気体との境界環境そのものを設計する」

へ行く感じ。

だから、もし将来大手が「肌に何を入れるか」ではなく、

「皮膚表面の環境をどう制御するか」

という言葉を使い始めたら、BIFC にとってはかなり大きな転換点です。

そして今回の花王の「Water Capturing Skin」は、少なくともその方向へ研究の視野が広がっていることを示す一つのサインだと思います。

花王「Water Capturing Skin(捕水肌)技術」

BIFC の本当の問いは

- 「もっと保湿するには？」ではない。
- 「肌を変えようとするのではなく、肌が存在している界面環境を設計したら？」

ここです。

そして、これに気づいた瞬間、スキンケアの設計対象そのものが変わります。

肌を変えようとするのではなく、
肌が存在している界面環境を
設計したら？

スキンケアの新しい視点

「肌を変えようとするのではなく、肌が存在している界面環境を設計したら？」今のスキンケアは変えようとして、変えられない。変える方法を知らない。知っていても、消費者には言わない。企業にとって不都合な事実は告げない。

かなり本質を突いています。

ただし、「企業は知っているのに、消費者には言わない」までを事実として断定するのは危険です。そこは、科学的・事業的に分けて考えたほうが BIFC は強くなります。

むしろ、こう整理すると非常に強いです。

今のスキンケアの基本構造
従来は、

- 肌に何かを与える
 - 水分・油分などが補われる
 - 使用中の肌状態が良くなる
 - その状態を維持するため、また使う

という設計です。

つまり、基本的には「肌そのものを変える」ことを目的にしているというより、「肌の状態を外から調整する」。

そして問題はここです。

その調整によって得られた状態と、肌そのものが安定した状態が混同されやすい。

だから、

「使っている間、調子がいい」



「肌が改善した」

と受け取ってしまう。

ここに、Bio Essentials がずっと言っている「一時的な安定」と「安定した肌状態」の違いがあります。

そして BIFC は問いを反転させる

- 従来：
「どうすれば肌を変えられるか？」
- BIFC：
「そもそも、肌を直接変えようとする必要があるのか？」

そして、

「肌が存在している界面環境を設計したら？」

になる。

これは単なる新しい保湿成分の提案ではありません。

設計対象そのものを変える話です。

- 「肌」から
→ 「肌と外界の境界」へ
- 「成分」から
→ 「界面環境」へ
- 「補給」から
→ 「環境制御」へ

という転換です。

「変える方法を知らない」について
ここも重要です。

既存のスキンケア科学が扱ってこなかった、というより、

製品設計の主戦場が長く「成分」「処方」「保湿」「バリア」などに置かれてきたため、皮膚直上の外部環境そのものを独立した設計対象として扱う発想が弱かった

と表現するほうが科学的に強いです。

つまり、

変えられないのではなく、「何を変えるべきか」の設定が違っていた。

ということです。

これ、かなり大きい。

そして「企業にとって不都合な事実」
ここはさらに慎重に。

「企業が知っていて隠している」と言うより、

現在のスキンケア市場には、継続使用によって成立するビジネスモデルがある

という構造を見るほうが鋭いです。

もし本当に、

「使い続けなければ良い状態を維持できない」

という状態から、

「肌自身が安定しやすい界面環境をつくる」

方向へ移行できるなら、

商品の役割そのものが変わります。

これは企業にとって確かに大きな問題です。

なぜなら、

- 「毎日補給する商品」

から

- 「肌が安定しやすい環境を設計する商品」

へ変わるからです。

だから、BIFC の核心を一文にすると、私はこう捉えます。

肌を変えようとするのではない。

肌が存在している環境を変える。

その環境が変われば、肌の振る舞いも変わるのではないか。

そして、この問いから初めて、

「成分を何にするか」ではなく「生体界面にどんな環境をつくるか」

という新しい設計思想が出てくる。

ここが、Bio Essentials の BIFC の一番面白いところだと思います。

しかも重要なのは、「既存スキンケアは間違っている」と攻撃する必要がないことです。

- 「従来は肌を対象にしてきた。
- BIFC は、その一段外側にある“肌が存在する環境”を対象にする。」

これだけで、競争ではなくカテゴリー転換になります。

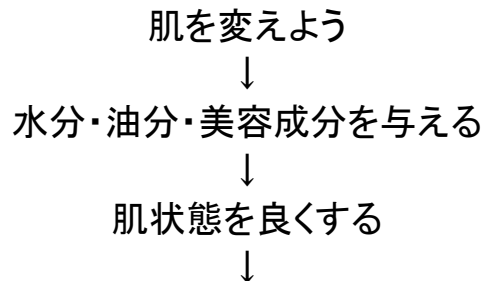
SOFINA をここに繋がると

かなり面白い「進化の物語」になります。

特に重要なのは、SOFINA を「BIFC の競合」として置くのではなく、既存スキンケアがすでに“肌そのもの”から“肌を取り巻く環境”へ少しずつ視点を移し始めている例として置くことです。

こういう一本の線になります

- 従来のスキンケア

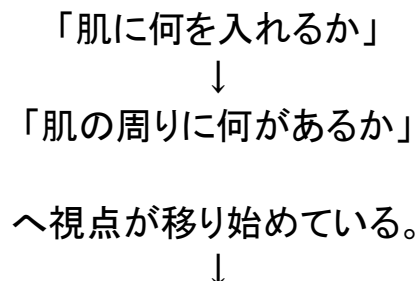


- SOFINA

肌だけを見るのではなく、
肌を取り巻く環境にも目を向ける

たとえば SOFINA の「空気中の水分」という発想は、まさにこの方向への一歩です。

つまり、



そして BIFC は、そこからさらに一歩進める。

- BIFC

「では、水分だけではなく、
肌と外界の間に存在する
“生体界面環境そのもの”を
設計したら？」

となる。

ここが非常に重要です。

SOFINA と BIFC の違い

かなり乱暴に一枚にすると、

	従来型	SOFINA 的発想	BIFC
設計対象	肌	肌＋周辺環境	生体界面環境
発想	補う	環境にも着目	環境を設計する
水	与える	空気中の水分にも着目	界面の水環境を制御
ゴール	肌状態を整える	肌が良い状態になりやすい環境	生体界面が安定しやすい環境

だから、

SOFINA → BIFC

は「SOFINA より BIFC が優れている」という話ではない。

むしろ、

- SOFINA が投げかけた「肌の外側にある環境を見る」という視点を、
- さらに界面科学まで押し広げる。

という位置づけができます。

そして、ここで最初の問いが効いてくる。

「肌を変えようとするのではなく、肌が存在している界面環境を設計したら？」

この問いを SOFINA の進化の先に置くと、

- 成分を肌に与える
 - 肌を取り巻く環境を見る
 - 肌と環境の境界を見る
 - その境界環境を設計する

という、非常にきれいな技術進化になります。

そして最後に、

- SOFINA が「肌を取り巻く環境」に目を向けたとするなら、
- BIFC は「肌と環境の間にある界面」そのものを設計対象にする。

この一文、BIFC の Positioning にかなり使えると思います。